

<Bコース①仕事と介護の両立推進事業>

(社外用・都ホームページ掲載用)

企業名	特定非営利活動法人フレンズ
所在地	東京都板橋区常盤台四丁目 21 番 7 号
業種	P 医療、福祉
常用労働者数	30 名
事業内容	訪問介護、デイサービス、居宅介護支援、児童福祉施設
ホームページ	http://www.npo-friends.net/
1 ニーズ調査	
①実施日及び実施方法	平成 29 年 11 月 25 日に調査票を全職員へ配布、12 月 30 日に回収。
②対象者数、回収数、回収率	対象者 30 名、回収数 24 名、回収率 $24 / 30 = 80\%$
③調査結果概要 (調査により明らかになった課題)	<p>1) 現在の職員の介護状況、介護対象者の有無について 介護をした経験があるが 14 名 (58%) で、そのうち現在も介護をしているが 3 名 (23%)。</p> <p>2) 今後の職員の介護見込みについて 今後、介護する可能性がかなり高いが 5 名 (23%)、介護する可能性が少しあるが 10 名 (45%)。</p> <p>3) 仕事と介護の両立に関する不安について 不安を感じないが 7% で、大多数が不安を感じている。その理由は、「自分が介護休業を取得すると収入が減ること」、「公的介護保険制度の要介護者となった場合、どのような状態になるのか予想がつかないので、漠然とした不安がある」、「代替要員がおらず、介護のために仕事を休めないこと」などがある。</p> <p>4) 介護が続いた場合の望ましい働き方及び社内制度について 介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、できるだけ普通に働き続けながら、仕事と介護の両立をしていきたいが 59%、介護が必要な時期は休業制度を利用して自分が介護をして、その後仕事に復帰するが 15%。</p> <p>5) 就業規則、規程内の介護関係制度に関する認知状況について 制度があることは知っているが、内容はわからないが 17%、制度があるかどうか知らないが 46% と、認知度は低い。また、介護休業期間は介護に専念するための期間であるとする回答が、どちらかということを含めて 43%。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>仕事と介護の両立に関する不安が多く、また支援制度を利用しつつ、仕事と介護の両立をしていきたいという声が多い反面、介護関係制度に関する認知度が低い。</p>
2 プロジェクトチームの設置及び運営状況	
①設置日・メンバー	<p>(設置日) 平成 29 年 11 月 10 日</p> <p>(メンバー) 総計 3 名 (理事長、事務局長、職員)</p> <p>・都内勤務者 (計 3 名) ・都外勤務者 (計 0 名)</p>
②運営の状況 (開催日、検討内容及び参加者数)	<p>第 1 回: 平成 29 年 11 月 10 日 活動内容及びスケジュールの確認、相談窓口の検討設置 (3 名参加)</p> <p>第 2 回: 平成 30 年 1 月 15 日 調査結果概要説明、取組案の提示 (3 名参加)</p> <p>第 3 回: 平成 30 年 1 月 25 日 取組案についての意見交換、確定 (3 名参加)</p>
3 策定した取組計画 (内容及び取組時期)	
平成 29 年 11 月 10 日: 相談窓口を設置する	
平成 30 年 1 月から : 仕事と介護の両立の研修を実施する (年 1 回程度)	
平成 30 年 1 月 30 日: 介護休暇を現行 (法改正による) 半日単位の取得から、1 時間単位の取得へ改定し、取得しやすくする。	
平成 31 年度から : 定期的な個人面談を実施する (年 1 回程度)	
平成 32 年度から : 介護経験者と社内外の介護者と交流会を開催する (年 1 回程度)	

